

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和4年度第2回 理事会議事録

令和4年3月28日（月）20:00～21:40

浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、西良浩一、高相晶士、
田中信弘、筑田博隆、千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、
長谷川和宏、波呂浩孝、松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

会議は web 会議で行われた。

理事長挨拶

松山理事長が開会を宣し、審議に入った。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認（松山理事長）

前回議事録について修正等ある場合は、渡辺理事へ一報する。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（2月分）

2月の入退会について全員を承認した。

3. 財務委員会より：令和4年度予算案の件

新年度の予算を提示した。昨年度決算の監査も完了し、前期の繰越金も確定している。一同内容を確認し承認した。

4. 評議員会資料の件（委員会報告、庶務報告、議事次第、座席等）

評議員会・総会の式次第や席次、委員会報告資料について確認を求めた。

前回の理事会で決議された名誉会員3人の追悼については、例年「黙祷」を行っている「庶務報告」の部分にて、ご逝去順（辻先生・小野村先生・菊地先生）に、それぞれ5分以内でスライド追悼をすることになった。

一同、資料一式を承認し、一部内部資料を除き、評議員会へ提出することになった。

5. その他

日本側彎症学会との名簿相互利用について

前回の理事会で提起された日本側彎症学会（以下、側彎症学会）からの依頼について、側彎症学会のメンバーシップ委員会担当理事・委員長からの個人情報保護に関する念書の提出を求めることになっていた。当学会顧問弁護士の小島先生に相談し、最終的に側彎症学会からの3枚（理事長：伊東学先生、メンバーシップ委員会担当理事：高相晶士先生、メンバーシップ委員会委員長：播広谷勝三先生）の念書を提示した。

また同様に日本脊椎インストゥルメンテーション学会からも依頼があり、種市洋理事長と金村徳相庶務担当理事からの念書が示された。

一同確認のうえ、念書の範囲での当学会の名簿譲渡を承認した。

ヒストリアン委員会より：50年誌の見積について

50年誌の見積書を提示した。部数が多いため金額としては日本脊髄障害医学会記念誌の倍程度である。一同検討の結果、承認した。

社保委員会より：ヘルニコア認定証の件

ヘルニコア（椎間板内酵素注入療法）の施設認定について、認定証を毎年認定施設へ配布しているが、今回の診療報酬改定により最長3年までの延長が許可された。「学会裁量で認定期間を決めてよい」との厚労省医療課からの返答に基づき、2年としている日本脊髄外科学会との検討次第ではあるが、当学会としては3年とする。

安全医療推進委員会より：プリオンに関して

プリオン病感染症予防ガイドライン（2020年版）中に出てくる「展開」に対する、日整会安全医療推進・感染対策委員会プリオン病に関するWGの解釈（報告）について情報共有した。日整会の解釈をJSSRのホームページへ掲載することを一同承認した。

「プリオン対策洗浄の実施状況」についてのアンケート原案をWGで作成中である。今後アンケートを行っていく。

データベース委員会より：WGの設置について

データベース委員会のWG設置を提起した。メンバー案は以下のとおり。

- ・JSSR-DB WG 2022(敬称略)

筑田、金村、山田、吉井、上田、有馬、伊藤、町野、渡辺慶、中川、新村(非会員・雇用者)、種市

- ・JSSR-DB データクレンジング WG(敬称略)

筑田、金村、有馬、岩崎、石井、大鳥、細金、海渡、今釜、渡辺航、新村(非会員・雇用者)、種市

以上検討の結果、承認した。

名誉会員の推薦の追加について

山田理事が、前回理事会で推挙が決まった4名に追加して、田中靖久評議員を推薦したいと提起し、同評議員の学会内外での功績について説明した。
一同検討の結果、承認した。

2. 審議・決議事項

1. 財務委員会報告

令和3年度の決算を昨年との差異を中心に報告した。小澤監事・小西監事から特に問題なく監査を終了したと報告がなされた。

学会の今後の財務見通しについて一同意見交換した。

2. 社会保険等システム検討委員会報告

今回の診療報酬改定について、まず確定部分（点数など）を学会員に周知したい。すべてが決定するのは6月頃になる。それについてはNLやホームページへの掲載、一斉メール等を利用して周知する。

ヘルニコア（椎間板内酵素注入療法）の今回改定結果については、手技料は変更ないが、算定施設基準は有床診療所が使えるようになったことは大きい。

2024年保険改定での使用に先立ち、各学会で2術式を選び、外保連データとJOANRデータの突合せを行う予定である。JSSRの2術式は頸椎椎弓形成術と腰椎後方固定術とした。

3. 倫理委員会報告

前回理事会以降の審議結果（XLIFACR, THORACIC、OLIF51DB構築研究期間延長）について報告した。

4. 広報委員会報告

前回理事会以降のホームページの更新状況（関連学会の紹介ページやSpineWeek 2023のお知らせ等掲載）を報告した。

5. 指導医制度委員会報告

JSSR-DBと指導医申請との関連づけについて以下の内容について、ホームページやNLを用いて、会員へ告知したと報告した。

JSSRのデータベースと指導医制度の「紐付け」について

- ① 2022年4月1日以降の症例は原則、日本脊椎脊髄病学会レジストリーに登録されている症例のみを「継続」申請に用いることができる。
- ② 但し、やむを得ず登録されていない症例を使用する場合には、その理由を添える。
- ③ 「新規」申請に関しては5年間の猶予期間が設けられている。2027年度申請者から、原則、日本脊椎脊髄病学会レジストリーの症例を提出することとなる。
総会等でも告知する。

6. 安全医療推進委員会報告

- 1) 貸出器械 (Loan Instruments) 使用患者が後日プリオン病と判明した事例報告
- 2) 脊椎脊髄手術における周術期抗血栓薬使用の安全性に関する研究を4月のJSSR学会発表することについて
- 3) 脊椎手術における部位確認に関する研究4月のJSSR学会発表することについて
上記1)に関連して「プリオン病感染予防ガイドライン2020」を用いて、プリオンの予備知識や注意点を理事会で共有した。
また、上記3)の発表内容について、再度検討した。一部内容については、スライドに載せず口頭のみで発表してもらうよう川口委員に依頼する。

7. JSR編集委員会報告

前回の委員会で、JSR-NLアンケート調査結果からの課題として、開封率・クリック率を上げるためのいくつかの方法が検討された。ニュースレター (NL) のタイトルを変更すること (例えば、【一般社団法人 日本脊椎脊髄病学会 News Letter (NL)】) や JSRとSSRRのリンクをトップ (バナーの下) に上げること、JSSR特集号時のNLに短い要旨を掲載することなど。このNL用要旨については、投稿時に付けてもらい、来年1号 (13巻1号) より開始する方向で準備する。
また、レビュー数を基本とした Best reviewer 賞やクリック数を基本とした最注目論文賞 (ともに仮称) を検討することになった。

8. プロジェクト委員会

プロジェクト研究症例進捗報告を行った。

9. 国際委員会報告

2022年4月のSPINE20 (in バリ、インドネシア) について、シンポジウムの大きな流れを説明した。当学会はブラジルの学会とともに「エイジングについて」を担当することになる。ハイブリッドで実施するが、できる限り現地参加できればと考えてい

る。理事会メンバーのフリーアクセス権については前回同様に働きかけたい。
今年6月インドで開催されるAPSS (APPOS) のアブストラクトについての働きかけも、
酒井委員からしてもらっている。ライブサージャリーも予定されているので、ぜひ協
力をお願いしたい。

10. 学会事業継続に向けた外部団体との連携促進 WG 報告

企業との連携の形式について、前回の WG で話し合われた内容を報告した。
各企業から JSSR への寄付について、これまでやや不透明であったが、今後は外部から
もしっかりと見えるようにすることを念頭に置いての以下の検討をした。

特別賛助会員の検討

- ・寄付金額に応じたランクを作成し、その特典については差別化を図る
- ・企業からのコンサルティングに関し窓口を JSSR に一本化し、今後「賛助会員となる
ことを必須」として対応する。

4月の学会会期中に企業と連携についての意見交換会を対面で行う予定である。

11. 新技術評価検証委員会報告

前回の委員会で話し合われた以下の内容を報告した。

- 1) XLIF 症例数報告
- 2) LIF 合併症調査 今年で最後になり、年次報告を英文で投稿する予定
- 3) 各 WG (頸椎人工椎間板 WG・ACR・胸椎 XLIFWG・OLIF51WG・椎体形成 WG) 報告の進
捗状況

また、仙腸関節固定術の適正実施ガイドライン第1版が完成した。施設、医師要件に関してハ
ンズオンセミナーを実施し、修了者には証明書を学会と企業名併記で発行することになってい
る。データベース登録については JOANR-JSSR-DB とは別に全例登録予定とした。意見や指
摘があれば、4月10日までにEメールで渡辺理事に連絡する。

12. その他の委員会報告

データベース委員会報告

2021年度 JSSR-DB 登録状況のまとめを報告した。

- ・登録数 11723 件
- ・登録施設 701 施設 (登録対象機関でない 31 施設を含む)
- ・未登録施設 436 施設

2021年度登録対象機関 1106 施設 (JSSR 指導医が在籍する施設)

推定施設登録率 77.8%

日本脊椎インストゥルメンテーション学会の JSIS-DB との連携など、今後の予定も詳細に報告

した。また、このデータベースをどのように会員に還元できるかなどを開示していく予定である。松山理事長が、4月の学術集会でのJSSR-DBのセッションで会員から希望を募るものよいと提案した。

また、WG設置(決議事項で審議済み)および2022年度のデータベース事業予算概要を説明した。

13. その他

教育研修委員会より：研修コースの件

4月の学術集会でのIコースからIVコースの申し込み状況を報告した。Iコースにはまだ空きがあるので申込をお願いしたい。

4月の学術集会の開催形態について

指導医イブニングセミナー以外は現地のみになること、晚餐会は挨拶と音楽を聴きながら1時間程度を予定している。

以上

以上

令和4年3月25日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭